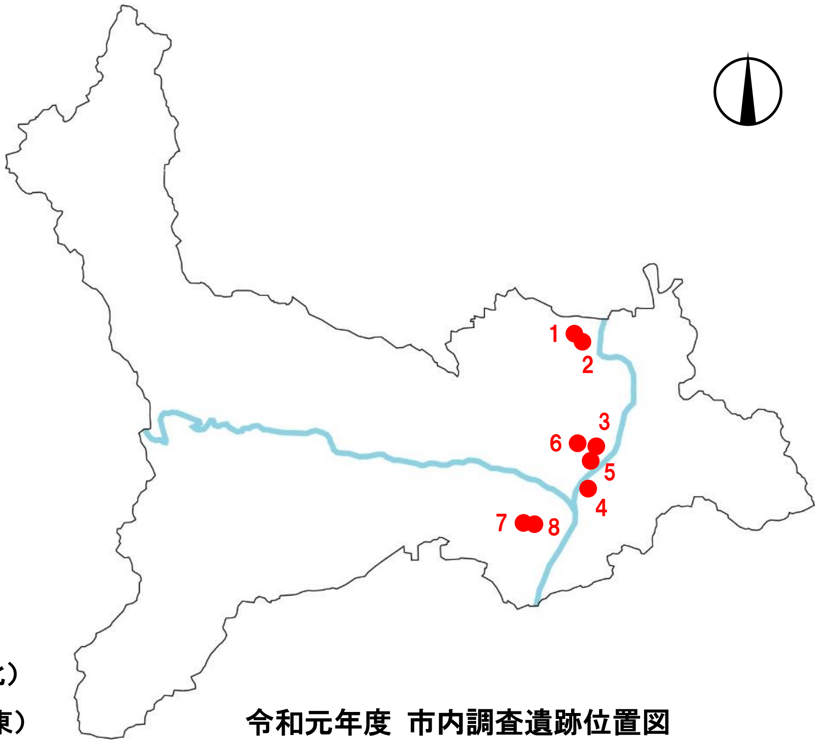
令和元年度　北上市発掘調査報告会

日本現代詩歌文学館講堂
令和２年１月１１日（土）

北上市立埋蔵文化財センター

はじめに

北上市立埋蔵文化財センターでは令和元年度、市内の８遺跡で発掘調査を行いました。調査理由は住宅建設、宅地造成、工業団地造成などがあり、いずれも開発により消滅する埋蔵文化財を記録保存するための調査です。発掘調査の成果をご覧頂き、地域の歴史に思いを巡らせる機会となれば幸いです。



1. 成田遺跡（成田）
2. 成田岩田堂館遺跡（成田）
3. 梨子山遺跡（上野町）
4. 立花南遺跡（立花）
5. 里分遺跡（黒沢尻）
6. 細越遺跡（小鳥崎）
7. 滝ノ沢遺跡（大堤北）
8. 大堤東遺跡（大堤東）

令和元年度　市内調査遺跡位置図

１．成田遺跡（成田）・２．成田岩田堂館遺跡（成田）　―飯豊川の高台に広がる縄文の狩猟場―

調査期間　1：4 月 10 日～5 月 8 日、2：9 月 9 日～10 日　**調査理由**　工業団地造成　**調査概要**　縄文時代（詳細時期不明）の溝状落し穴 3 基、縄文時代晩期（約 2,500 年前）の食糧貯蔵穴 2 基、土坑 1 基などがみつかりました。溝状落し穴 3 基は昨年みつかった 4 基の溝状落し穴と同じ経路に並んでおり、獣道に沿って掘られたと考えられます。さらに縄文時代晩期の食糧貯蔵穴がみつかったことから、今まで知られていない縄文時代晩期のムラが成田遺跡にあったことが分かりました。成田岩田堂館遺跡からも溝状落し穴が 1 基みつかっています。

3基が並ぶ溝状落し穴（南から）

縄文時代晩期の食糧貯蔵穴（南から）

食糧貯蔵穴の使用方法

住宅街と縄文落し穴（人がいる場所が落し穴、南から）

３．梨子山遺跡（上野町）―住宅街の縄文落し穴―

（なしこやまいせき）

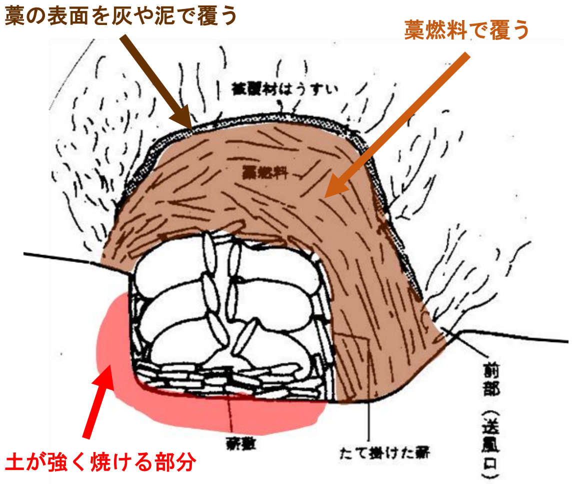
調査期間　５月 27 日～５月 30 日　**調査理由**　住宅建設　**調査概要**　縄文時代（詳細時期不明）の落し穴２基がみつかりました。今回みつかった落し穴は円形で底に杭穴の無いものが１基、長方形で底に杭穴が５個あるものが１基です。過去の調査でも円形で底に杭穴が１つある落し穴などがみつかっており、様々な種類の落し穴が分布していることがわかっています。これらは時代の違いを示しているとみられます。上野町の住宅街は、縄文時代の長い間、狩猟の場となっていたことがわかってきました。

４．立花南遺跡（立花）　―奈良～平安時代の土器作りのムラ―

（たちばなみなみいせき）

調査期間　10 月 17 日～11 月 15 日　**調査理由**　住宅建設　**調査概要**　奈良時代～平安時代初頭（８世紀後半～９世紀）の竪穴住居跡１軒、土師器焼成遺構３基、焼土１基、溝５条がみつかりました。立花南遺跡では土器を焼いた穴（窯）＝「土師器焼成遺構」が過去の調査で 15 基みつかっており、北東北でも数少ない奈良時代末の土器生産遺跡だったことが分かっています。市内では立花南遺跡のほかにも土器生産遺跡が多数みつかっており、北上市は岩手県内では土器生産の中心となっていたと考えられています。土師器焼成遺構の大きさは 1.0×1.0m、深さ 30cm ほどで、底と壁が強く焼けていました。また、溝跡のうち一つには生粘土の塊が２個埋められていました。土器製作用の材料を保管するための溝だったと考えられます。これらの遺構の発見から、今回の調査地点は遺跡内でも土器生産関連の遺構が集中する、工房群の一角であったことがわかりました。

土師器焼成遺構の調査（南から）



土師器焼成遺構の使用方法

粘土の塊が埋められた溝（北から）

溝に埋められていた白色粘土の塊（北から）

土師器片（赤彩球胴甕）

土師器片（球胴甕）

須恵器（甕）

出土した土器

５．里分遺跡（さとぶんいせき）（里分）―平安時代の住居と帯金具―

調査期間　８月 26 日～９月 18 日　**調査理由**　宅地造成　**調査概要**　平安時代（9 世紀後半）の竪穴住居跡２棟、近～現代の溝跡３条などがみつかりました。里分遺跡の東側には奈良～平安時代の大規模集落として知られる牡丹畑遺跡があります。今回の調査では竪穴住居跡から土器のほかに、鉄製の帯の絞め金具が１点みつかりました。今回みつかった帯の絞め金具がどの様な経緯で住居跡にもたらされたのかは分かりませんが、当時誰もが着用したものではなく村落内でも有力者が着用したものと考えられます。同時期の集落である二子地区の千刈遺跡、堰向Ⅱ遺跡からも各１点の出土例があり、それぞれの村に鉄製帯金具を着用するような立場の人物が存在したのかもしれません。

カマド脇の穴からみつかった土器(南西から)

帯の絞め金具

平安時代の竪穴住居跡(南西から)

平安時代の竪穴住居跡？(西から)

６．細越遺跡（ほそごえいせき）（小鳥崎）―平安時代の住居跡？―

調査期間　４月 22 日～24 日　**調査理由**　宅地造成　**調査概要**　不整形な形の穴が５～６基みつかりました。形状からみて、奈良～平安時代（８～９世紀）の竪穴住居跡の一部とみられます。北上川西岸の河岸低地には、細越遺跡のほかにも里分遺跡や牡丹畑遺跡など奈良～平安時代の集落遺跡が多数分布しています。この時期に市内では集落遺跡が急増しており、細越遺跡もそうした遺跡の一つと考えられます。

７．滝ノ沢遺跡（たきのさわいせき）（大堤北）―縄文中期のムラの跡―

調査期間　５月 22 日～30 日　**調査理由**　アパート建設　**調査概要**　縄文時代（詳細時期不明）の溝状落し穴３基、柱穴状土坑群がみつかったほか、縄文時代前期～中期（約 5,000～4,500 年前）の土器片が出土しています。滝ノ沢遺跡では、特に国道４号線の西側から多数の遺構と遺物が見つかっています。近年の調査により、国道４号線の東側にも集落が広がっていた様子が明らかになっており、今回の調査でもそれが裏付けられました。

縄文時代の溝状落し穴と小柱穴群(北西から)

８．大堤東遺跡（大堤東）―相去の台地上で初めてみつかった平安時代の古墳―

調査期間　６月５日～７月９日　**調査理由**　アパート建設　**調査概要**　縄文時代（詳細時期不明）の土坑１基、平安時代（９世紀後半）の古墳１基、掘立柱建物跡２棟、溝跡１条、時期不明の柱穴状土坑群がみつかりました。古墳からは直径約８ｍの周溝と 90 ㎝×180 ㎝の埋葬のための穴２基がみつかっていますが、墳丘の有無は不明です。埋葬のための穴が２基作られる古墳は県内には類例がありませんが、掘立柱建物跡も２棟みつかっていることから、両者には何らかの関係があるのかもしれません。９世紀後半に相去の台地上では集落が急増しており、この古墳はそうした集落における指導的な人物の墓だったのかもしれません。

調査区全景（西から）

SB002 掘立柱建物跡（南西から）

SB003 掘立柱建物跡（南西から）

周溝からみつかった火山灰（南東から）

出土した土器

北上市立埋蔵文化財センター
〒024-0051　岩手県北上市立花 14-62-2　　TEL：0197-65-0098